

平成29年度認知症フォーラム

認知症について「知る」をテーマに、9月30日(土)ふるさと交流圏センターオルテンシアにて認知症フォーラムを開催しました。

フォーラムでは、「津軽伝統人形劇金多豆蔵一座」による特別公演があり、認知症サポーター養成講座をテーマとした人形劇が披露されました。今春、市長・副市長・教育長が認知症サポーター養成講座を受講したことを紹介しながら、サポーターの役割について来場者約900名が理解を深めました。

また、市内関係団体から認知症に関しての取り組み発表がありました。ロビーには各団体の展示・体験・相談コーナーが設けられ、多くの市民が楽しみながら取り組みについて知る機会となりました。

さらに、市内在宅介護支援センター・健生五所川原診療所・西北五認知症高齢者グループホーム協会の3団体から寸劇発表があり、認知症についての知識や、相談場所、認知症ケアについて楽しく学ぶことができました。

来場者からは「多くの方が組織的に認知症に取り組んでいることがわかり、大変勉強になった」「金多豆蔵を50年ぶりに見た。感動した」「五所川原農林高等学校の取り組みはすばらしかった。この活動が市内小中高等学校へ広がれば」等の声が聞かれました。



津軽伝統人形劇金多豆蔵一座



五所川原農林高等学校のハンドマッサージコーナー

認知症の人をみんなで支えよう

いま、世界中で認知症の人が増えています。認知症は、誰もが関係する可能性があります。そのため、認知症の予防に努めるとともに、認知症になっても安心して暮らせるようにみんなで協力し合うことが必要です。

昨年、市では、認知症関連の宣言としては県内初となる「認知症の人をみんなで支え合うまちづくり宣言」を行いました。

認知症についての研究や取り組みが進み、分かってきたことは「認知症になっても、自らの工夫や周囲のサポートなどによって、自分らしく生きる事が可能である」ということです。大切なのは「認知症とはどんな病気なのか、どんな関わりが大切なのか」をよく理解する事です。

毎年行っている認知症フォーラムも回を重ねるごとに参加者が増え、今年の参加者はついに900名を超え、盛況のうちに無事終える事ができました。

市では、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して、出来る範囲で手助けをする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいます。認知症サポーター養成講座は、地域住民、金融機関やスーパーマーケットの従業員、小・中・高等学校の生徒など、様々な方に受講いただき、認知症サポーターの数は4,500名を超えました。

そこで、市民の皆さんにお願いがあります。ぜひ、来年の認知症フォーラムまでに認知症サポーター養成講座を受講して、会場をオレンジリングの温かい思いやりの心でいっぱいにしてみませんか。

きっと素敵なまちづくりができるような感じがします。

認知症フォーラム実行委員会委員長
健生五所川原診療所 所長 津川信彦先生



認知症フォーラム実行委員長 津川信彦先生

川倉の湯っこからのお知らせ

「川倉の湯っこ」は温泉の設備改修のため、10月21日から休館しています。12月下旬の再開をめどに現在作業を進めています。正確な再開日については、市ホームページおよび金木地区の防災無線でお知らせし

ます。利用者の皆さんには大変ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

問 介護福祉課 内線2458